

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0173600719		
法人名	株式会社 ふるさとコミュニティ		
事業所名	グループホーム ふるさと (憩いユニット)		
所在地	北海道苫小牧市豊川町2丁目1番2号		
自己評価作成日	平成25年11月27日	評価結果市町村受理日	平成26年1月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出支援としまして、大型ショッピングモール・入浴施設・日用品の買い出し・外食など、その日その時の状況・状態に合わせて、出来るだけ外に出て行ける環境作り。日程を決めるのではなく、あくまでも天気や入居者様の思いと体調を考え、ごく普通の日常生活を送って頂きながら地域との関係・繋がりが途絶える事のないよう心掛けてます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0173600719-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=tr&amp;JigyosyoCd=0173600719-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成25年12月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	いつでも目に付くようユニット内の壁に貼り付けているが、職員の半数が一年未満という事もあり共有しきれていないのが現実。職員一人一人が意識を持ち実践していかなければならない。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	出来ている方だと思う。町内の祭り等にも積極的に参加し、傾聴ボランティアさんなどとも定期的に交流を図り地域とは日常的に関わりを深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	少しずつではあるが理解して頂けるよう地域に貢献出来て来ようと思う。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に2ヶ月に1度の運営推進会議を行い、出席者の方々の意見をサービス向上に活かしている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	少しでも協力関係が築けるよう、運営推進会議には地域の方や市の職員・包括支援センターの方にも参加して頂き取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	絶対にあってはいけない事と認識すると同時に、研修などにも参加し職員一人一人が理解しケアに取り組んでいる。また、玄関の施錠はせず職員の気付き・目配りの強化に努めている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	一部の職員しか研修は受けられてないが、一人ひとりが意識し十分に注意をはらい虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	なかなか学ぶ機会がなく理解出来ていない職員は半数ほど居ると思われるが機会があれば積極的に学びたいと思ってる職員も居るため、機会をつくり活用できる支援に努めて行きたいと考えている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な時間を掛けて説明を行い、ご家族様や利用者様の思いや不安な事を聞きながら、理解・納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者や職員を通して意見や要望は届いていて、その都度、職員間で共有し運営に反映できている。また、苦情箱の設置・外部窓口を契約時に説明している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議やカンファレンス・モニタリングを通して聞く機会を設けているが、余り積極的な意見や提案は多くないが、何かあればその都度聞きながら代表者に伝え反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者などから本人の勤務状況や能力や意欲などの報告を受け、本人の要望や意欲が活かされる様に外部研修への参加を促している。又、勤務時間や勤務形態についても本人の希望にそえる様にしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員全員が最低でも年に一度の割合で研修に参加できる機会を確保していて参加の声掛けに努めているが、積極的に参加したいという職員が少ない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ネットワークづくりを目的とした同業者との交流を深め質の向上に反映させながら取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	十分な時間を設け、ご本人の思いを出来る限り聞く事で安心が確保できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期は勿論だが、そのつど問題があった場合には、ご家族様との連携を密にし意見や要望を聞く時間を設け関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を聞く事で必要な支援の見極めができ優先順位を考えながら、本人に必要なサービスは何か検討し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の様な関係作りを念頭に、職員一人一人が意識を持って接し、決して介護してると考えずに共に支え合える関係が築けられるよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様とご家族様との関係は大切にしながら、その家族と共に状態や思いを共有し一緒に支えていける様な関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り途切れる事のないような支援を心掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	合うあわないは多々ある為、様子を見守りながら関係を見極め、スタッフが間に入るなどして関わりを深められると共に支えあえる関係を築けるような支援に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々なケースはあるが出来る限り必要に応じてご本人やご家族が望む事があればフォローしながら相談や支援に努めたいと考えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人にとって一番のケアが出来るよう関わりの時間を大切に一人一人の思いや願いの把握に努めている。困難な場合は出来る範囲で検討し、思いに近づけられるよう努める。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の情報(生活歴・馴染みの暮らし)をスタッフ間で共有し合い把握に努めているが、職員全員が把握出来るまでには至ってない。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ある程度、一人一人の過ごし方や現状は把握出来てくると思われるが、入居者全員が有する力を発揮しきれるだけの支援に至っていない。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族・関係者からの意見やアイデアを職員間でモニタリング等を行いながら介護計画の作成につなげているが、一年未満の職員が多い事も有り十分な理解には至っていない。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は取れており活かされている。しかし、新しい職員も多く、教育不足な部分もある。今後は教育に力を入れ、細かな情報を集め、より良いプランを作成しなければならない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々起こる日々の変化に対応できるよう型に捉われず、柔軟かつ臨機応変に支援出来るよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を取り入れ傾聴ボランティア・手芸教室など環境を整えながら安全に楽しく過ごせるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に関しては理解を得ている。その時の状態に応じて希望を聞きながら適切な医療が受けられるよう対応し支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは別紙を使用し個々の利用者の情報や気付き・受診結果等を共有し、全員が把握して適切に受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関との関係はスムーズに行われていて情報交換や相談には努めている。病院関係者との関係作りに関しては、個人的に行えてる方だと認識している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期におけるケアについてホームで行なえることを明確に説明しており又、実際に終末期に近づいた段階で指針について再度、説明を行い本人、家族の意向に沿って今後のケアを選択できる様にしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	経験の浅い職員が多い事と定期的な訓練も十分に行えてない為、日常的なバイタルチェックや全身状態の把握は理解出来ているが実践力に欠けている。もっと積極的に取り組んでいかなければならない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は行っているが、職員一人一人の意識を高め身につける必要がある。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	私たちケア者の基本でもある為、チーム全体として出来ていなければならない事だが十分とは言えないので指導の強化と日々の対応に心掛けるよう努める。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけるのではなく、自己決定の支援を徹底出来るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしをその人らしく続けられる為に何が必要かを職員間で話し合い理解し、一人一人のペースを大切に過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方の状態にもよるが一緒に洋服を選んだり化粧や髪をセットしたり、その人らしいオシャレが出来るよう支援し努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は利用者の状態が変わった事もあり食卓に座ったまま野菜の下ごしらえや皮むきなど行っている。また、食事はメニューが決まっているので利用者の要望に合わせて一緒に買い物に行き食べたい物・旬の物を提供しながら食事を楽しめるよう支援している。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量は一日を通して把握し対応している。食事は外部より委託している為、量と栄養バランスは確保できている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助が必要な方は保持できているが自立していて且つ抵抗のある方は毎回の保持までには至っていない。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ使用は極力避けるよう努め、状態により日中でも使用してる方はポータブルトイレを使用し排泄の支援に努めている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便チェック表を活用しパターンや原因を理解・把握し個々に応じた予防に取り組むことが出来ている。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日や時間は決めることなく希望に合わせて支援出来ている。以前は、夕食後も入浴の提供が可能だったが現在は夜間は不可。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣やその時々状況に応じた支援が出来ている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬に関しては大まかには理解できているが全ての職員が副作用までは理解できていない。薬の服用後に体調に変化が出た場合は看護師、医師に相談している。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	メリハリのある日々を過ごせるように個々にあった支援で、役割・楽しみ事・気分転換など考え行う事が出来ている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その時の状態・状況を考えながら出来る限り外に出掛けられる支援を心掛け、地域の入浴施設や大型百貨店・スーパー・外食など日常的に行うようにしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員全員が理解出来ているかは定かではないが、通院・外出時は所持して頂き会計など本人にして頂けるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯を所持している方も居られるし、要望があれば電話をかけられるよう支援している。日記をつけて家族が来られて時に出来事を伝えている利用者様も居る。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活感や季節感を取り入れるなどして工夫は出来ている。共有の空間としての(洗面台)は、車椅子の方には若干使用しづらいと思われる場面もある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人掛けソファや2人掛けソファを置いたり、死角になる場所・空間も作ったり居場所の工夫は出来ている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ほとんどの方が使い慣れた馴染みのものを居室に取り入れ配置しておられ心地よく過ごせるように工夫されている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	入所して間もない方でも迷ったり不安になる事がないように、トイレ・浴室には貼り紙等を使用し自立した生活を送れるように工夫している。		